

年次有給休暇の取得状況等について

○ 年次有給休暇の取得日数

実際の取得日数について、性・年齢別にみても、取得日数が「0」とするケースが多かったのが男性20歳代で27.7%、次いで女性20歳代も20.5%と2割を超えている。反面、女性30歳代、50歳代で「21日以上」が1割を超えている。取得日数では「取れる人」と「取れない人」に二極化している。

昨年度の取得日数

(上段:度数、下段:%)

	合計	0日	1~5日	6~10日	11~15日	16~20日	21日以上	無回答	平均(日)
合計	524 100.0	71 13.5	120 22.9	134 25.6	54 10.3	60 11.5	30 5.7	55 10.5	9.2
男性計	349 100.0	54 15.5	91 26.1	83 23.8	35 10.0	44 12.6	15 4.3	27 7.7	8.4
20代	83 100.0	23 27.7	17 20.5	20 24.1	7 8.4	6 7.2	4 4.8	6 7.2	7.1
30代	87 100.0	10 11.5	22 25.3	19 21.8	9 10.3	16 18.4	5 5.7	6 6.9	9.9
40代	90 100.0	10 11.1	25 27.8	19 21.1	13 14.4	13 14.4	3 3.3	7 7.8	8.8
50代	89 100.0	11 12.4	27 30.3	25 28.1	6 6.7	9 10.1	3 3.4	8 9.0	7.9
女性計	175 100.0	17 9.7	29 16.6	51 29.1	19 10.9	16 9.1	15 8.6	28 16.0	10.7
20代	44 100.0	9 20.5	6 13.6	12 27.3	4 9.1	2 4.5	2 4.5	9 20.5	8.1
30代	47 100.0	4 8.5	6 12.8	16 34.0	7 14.9	3 6.4	6 12.8	5 10.6	11.9
40代	40 100.0	1 2.5	11 27.5	13 32.5	4 10.0	4 10.0	2 5.0	5 12.5	9.3
50代	44 100.0	3 6.8	6 13.6	10 22.7	4 9.1	7 15.9	5 11.4	9 20.5	13.5

資料出所：(財) 連合総合生活開発研究所「年次有給休暇の計画的付与等の実態に関する調査研究報告書」(平成 15 年 3 月 厚生労働省委託調査)

○ 年次有給休暇の取得形態と目的

年次有給休暇の取得目的について、全体としては「休養」と「病気の療養・体調不良」がそれぞれ28.5%、24.2%と多くなっている。

取得形態別にみると、「年休1日単位の単独取得」では「病気の療養・体調不良」が最も多く、5割を超えており、緊急的な取得が多い。「年休1日と他の休日との組合せによる取得」では「国内宿泊旅行」が35.7%と多くなる。さらに「年休5日以上連続取得」となると「海外旅行」が31.4%と最も多くなっている。

取得形態別の主な年次有給休暇取得目的

(上段:度数、下段:%)

	合計	不病 気良 の療 養・ 体 調	休 養	の 家 事・ 育 児・ 子 供	介 護 や 看 護	テ レ ビ ・ 映 画 鑑 賞	啓 発 事 に 関 する 自 己	稽 古 ス ポ ー ツ や 趣 味 ・	外 食 な ど の 外 出 や
合計	833 100.0	202 24.2	237 28.5	95 11.4	16 1.9	7 0.8	9 1.1	72 8.6	61 7.3
年休1日単位の単独取得	281 100.0	143 50.9	102 36.3	60 21.4	9 3.2	4 1.4	5 1.8	31 11.0	27 9.6
年休1日と他の休日との 組合せによる取得	252 100.0	31 12.3	76 30.2	29 11.5	6 2.4	1 0.4	1 0.4	30 11.9	25 9.9
年休2～4日の連続取得	198 100.0	23 11.6	36 18.2	5 2.5	1 0.5	2 1.0	1 0.5	9 4.5	8 4.0
年休5日以上連続取得	102 100.0	5 4.9	23 22.5	1 1.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	2 2.0	1 1.0

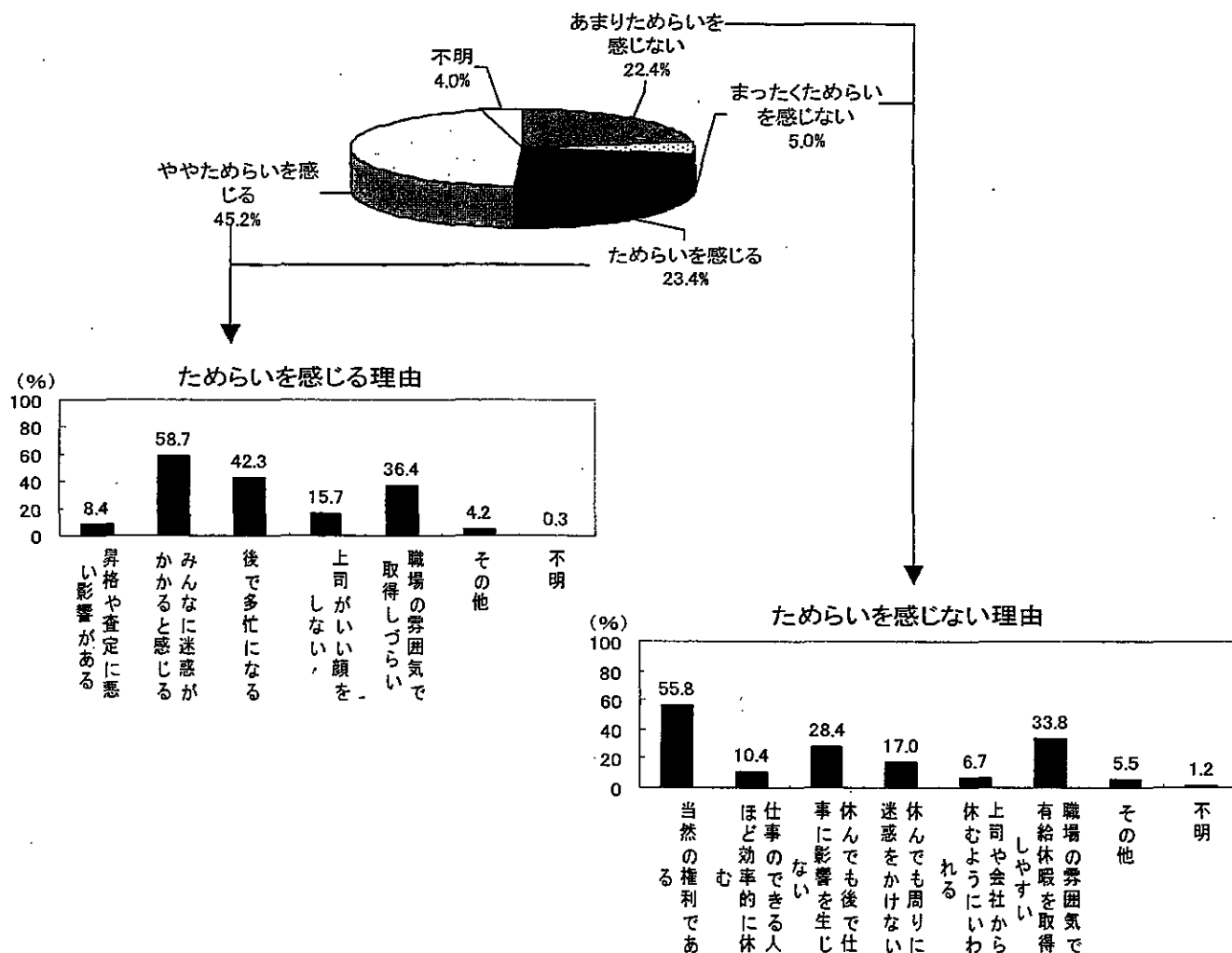
	日 帰 り の 行 業	帰 省	冠 婚 葬 祭	国 内 宿 泊 旅 行	海 外 旅 行	社 会 活 動	ド ア ル ビ ジ ネ ス ・ サイ	そ の 他	無 回 答
合計	89 10.7	86 10.3	49 5.9	192 23.0	71 8.5	8 1.0	0 0.0	32 3.8	34 4.1
年休1日単位の単独取得	32 11.4	3 1.1	24 8.5	9 3.2	1 0.4	6 2.1	0 0.0	12 4.3	4 1.4
年休1日と他の休日との 組合せによる取得	41 16.3	35 13.9	12 4.8	90 35.7	8 3.2	2 0.8	0 0.0	6 2.4	5 2.0
年休2～4日の連続取得	13 6.6	32 16.2	11 5.6	69 34.8	30 15.2	0 0.0	0 0.0	7 3.5	13 6.6
年休5日以上連続取得	3 2.9	16 15.7	2 2.0	24 23.5	32 31.4	0 0.0	0 0.0	7 6.9	12 11.8

資料出所：(財) 連合総合生活開発研究所「年次有給休暇の計画的付与等の実態に関する調査研究報告書」(平成15年3月 厚生労働省委託調査)

年次有給休暇の取得へのためらい

7割の労働者は、年次有給休暇の取得にためらいを感じており、「まったくためらいを感じない」労働者は5.0%と極めて少なく、「あまりためらいを感じない」(22.4%)労働者をあわせても、ためらいを感じない割合は3割弱にすぎない。

年次有給休暇の取得へのためらい



資料出所:「長期休暇制度に関する調査研究」(平成12年 三和総合研究所)

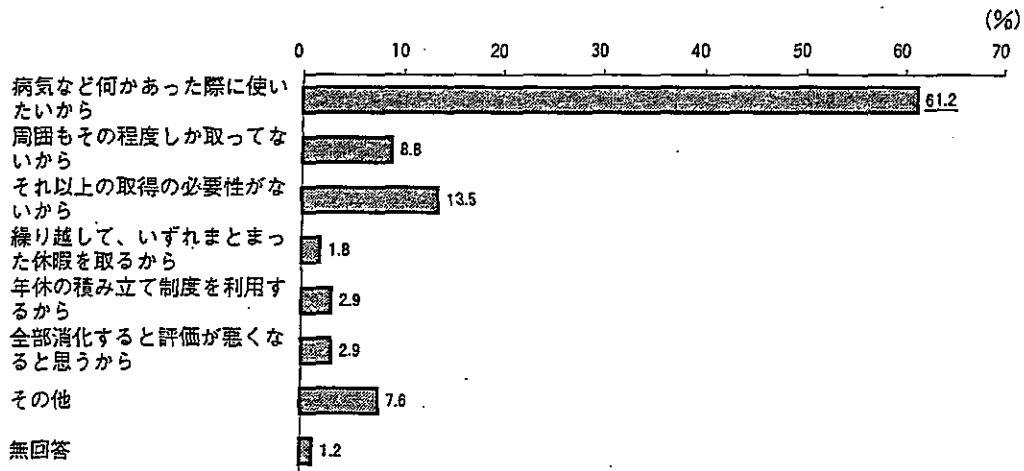
- * 上記資料所収のアンケート調査の実施時期は平成12年2月～3月
- * アンケートの対象は、従業員30人以上の企業5,000社に勤務する労働者(各企業4人)
- * 対象者数20,000人、有効回答数5,210人(有効回答率26.1%)

○ 年次有給休暇を残す理由

年次有給休暇を残す理由で最も多いのが「病気など何かあった際に使いたいから」で61.2%と6割を超えている。

また、性・年齢別にみると、男性30歳代、50歳代で「病気など何かあった際に使いたいから」が7割を超えている。また、男性20歳代で「周囲もその程度しか取っていないから」という割合が高くなっている。

年次有給休暇を残す理由（ベース：年次有休休暇を残す人）



年次有給休暇を残す理由（ベース：年次有休休暇を残す人）

(上段:度数、下段:%)

	合計	病気など何かあった際に使いたいから	周囲もその程度しか取っていないから	それ以上の取得の必要性がないから	繰り越して、いずれまとまった休暇を取るから	年休の積み立て制度を利用するから	全部消化すると評価が悪くなると思うから	その他	無回答
合計	170 100.0	104 61.2	15 8.8	23 13.5	3 1.8	5 2.9	5 2.9	13 7.6	2 1.2
男性計	113 100.0	71 62.8	11 9.7	13 11.5	1 0.9	4 3.5	4 3.5	8 7.1	1 0.9
20代	30 100.0	19 63.3	5 16.7	1 3.3	1 3.3	2 6.7	0 0.0	2 6.7	0 0.0
30代	28 100.0	20 71.4	2 7.1	4 14.3	0 0.0	0 0.0	1 3.6	1 3.6	0 0.0
40代	28 100.0	13 46.4	2 7.1	7 25.0	0 0.0	2 7.1	2 7.1	1 3.6	1 3.6
50代	27 100.0	19 70.4	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	1 3.7	4 14.8	0 0.0
女性計	57 100.0	33 57.9	4 7.0	10 17.5	2 3.5	1 1.8	1 1.8	5 8.8	1 1.8
20代	15 100.0	10 66.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	1 6.7
30代	13 100.0	7 53.8	1 7.7	2 15.4	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0
40代	13 100.0	8 61.5	1 7.7	3 23.1	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50代	16 100.0	8 50.0	2 12.5	3 18.8	0 0.0	0 0.0	1 6.3	2 12.5	0 0.0

資料出所：(財) 連合総合生活開発研究所「年次有給休暇の計画的付与等の実態に関する調査研究報告書」(平成15年3月 厚生労働省委託調査)

○病気休暇制度の賃金の支給状況別企業数割合及び1企業平均1回当たり最高付与日数

病気休暇制度がある企業は平成17年で22.1%となっている。企業規模別にみると、1,000人以上で39.7%と、大規模企業ほど制度を導入している。また、賃金の支給状況をみると、平成17年で賃金を支給する企業の割合は全額支給及び一部支給を合わせると7割を超えている。

年・企業規模	合計	病気休暇制度がある企業	(単位：%)				1企業平均1回当たり最高付与日数	
			賃金の支給状況					
			全額	一部	無給	不明	(単位：日)	
昭和63年	(100.0)	(30.8)	100.0	83.4	16.6	-	-	66.1
平成2	(100.0)	(24.9)	100.0	52.5	17.9	29.6	-	130.0
6	(100.0)	(27.0)	100.0	42.6	20.1	37.3	-	203.3
7	(100.0)	(24.2)	100.0	43.0	17.6	39.5	-	157.9
9	(100.0)	(23.1)	100.0	47.7	15.9	36.3	-	225.1
14(13年度)	(100.0)	(20.7)	100.0	40.6	27.0	30.1	2.3	118.1
15(14年度)	(100.0)	(19.1)	100.0	43.3	21.8	32.9	1.9	132.9
16(15年度)	(100.0)	(21.2)	100.0	51.7	18.7	29.2	0.4	131.5
17(16年度)	(100.0)	(22.1)	100.0	50.7	22.2	26.5	0.6	135.7
1,000人以上	(100.0)	(39.7)	100.0	62.7	16.6	19.3	1.4	202.1
100~999人	(100.0)	(24.9)	100.0	49.9	18.0	30.6	1.5	159.0
300~999人	(100.0)	(27.1)	100.0	56.8	16.2	24.3	2.7	193.2
100~299人	(100.0)	(24.2)	100.0	47.4	18.7	32.8	1.1	145.9
30~99人	(100.0)	(20.4)	100.0	50.4	24.5	25.0	0.2	119.8

資料出所：厚生労働省「就労条件総合調査」（旧「賃金労働時間制度等総合調査」）

- (注) 1) () 内の数値は、全企業に対する割合である。
 2) 平成9年以前の「無給」には「不明」も含まれる。
 3) 病気休暇とは、本人が業務外の私傷病によって就労できない場合に認められる休暇をいう。